

「スーパーシティ」構想について



平成31年3月29日
内閣府特命担当大臣（地方創生）片山さつき

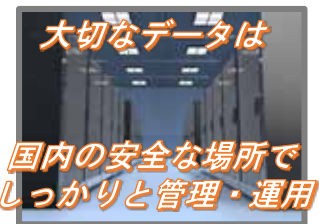
「スーパーシティ」構想について

- I. 以下のような領域（少なくとも5領域以上など）を広くカバーし、**生活全般にまたがる。**
移動、物流、支払い、行政、医療・介護、教育、エネルギー・水、環境・ゴミ、防犯、防災・安全
- II. **2030年頃に実現される未来社会での生活を加速実現**する
域内は自動走行のみ、現金取扱い・紙書類なしなど
- III. **住民が参画し、住民目線**でより良い未来社会の実現がなされるよう、**ネットワークを最大限に利用**する。

全ての行政手続を、
個人端末で効率的に処理。

エネルギー、上下水、リサイクル
などをコミュニティ内で最適管理。

全てキャッシュレス。
エリア内は現金不要。



(サーバーのローカライゼーション)



ビッグデータ解析

AIの活用

全ての医療・介護を
かかりつけから在宅で。

全ての住民・子どもに
世界最先端の教育環境を。

いつでもどこでも必要な
移動・配送サービスを提供。

中国・杭州 現地視察概要

世界最大のEコマース企業（流通総額年52兆円）であるアリババ集団による事業展開を視察。AI・ビッグデータを活用した、交通渋滞の緩和や、データ共通基盤を活用した多様なサービス展開について、岡田聡良（さとし）・アリババ集団副総裁より紹介。



○同総裁との間で、双方の強みを生かした、地方創生を含む今後の連携について意見交換。

【取組の概要】

道路ライブカメラの映像をAIで分析、下記の取組に活用
(2,000~3,000台のサーバー、4,000台超のカメラを配備)

【項目】

【取組による効果】

車両異常を認めた場合
警察に自動通報

・AI経由で警察に寄せられる交通違反や事故情報は多い日で500件

交通状況に応じて
信号機の点滅を
自動で切替え

・救急車の到着時間が半減
・一部の地域では、自動車の走行速度が15%上昇

蓄積データを元に渋滞要因
を分析、新たに信号機や右折・左折レーンを設置

・一部区間では通過時間が15%短縮



交通管制センター リアルタイムモニタリング



交通状況 自動判別の様子

幹部面談



- (1) 岡田聡良
アリババ集団副総裁兼日本アリババ代表取締役COO
2000年からソフトバンク勤務、2008年に設立されたアリババ日本法人の取締役を設立当初から務める
- (2) 趙戈・TMALL（天猫）輸出入事業部アジア企業誘致総監
- (3) 金尚学・アリクラウド国際業務部プロジェクト専門家
- (4) 史佳・グローバルリーダー小組戦略発展業務開拓専門家
- (5) 周南慰・アリババ集団公共事業部シニア經理 等

人工知能発展計画

中国科学技術部は、2017年11月に「次世代人工知能発展計画」を発表し、アリババはスマートシティを担当することに。本社のある杭州市で実用化し、7都市に横展開する予定。

領域	担当企業
スマートシティ	アリババ
医療	テンセント
自動運転	百度(バイドゥ)
音声認識	アイフライテック

9号館展示区

アリババ専門の展示館
アリババの技術やサービス（AI、金融システム）を展示
2016年に杭州でG20が行われた際、カナダ、イタリア、オーストラリア、インドネシアのハイレベルも同展示館を視察
○広報のうまさは抜群。



「世界経済フォーラム」(通称：ダボス会議) から御招待いただき、同会議に出席するため、1月22日(火)～24日(木)スイスに出張いたしました。

1 . Infrastructure and Urban (IU) Development Policy Meeting (インフラ・都市開発政策に関するセッション)



【セッションの目的】

- 民間セクター、国際金融機関及び政府の間での協働を促進
- ファイナンス可能なインフラプロジェクトのパイプラインをグローバルに増やすためのアクションプランへの合意

【セッションでの成果】

- 世界の名立たる金融当局や投資銀行を前に、官民連携のファイナンス協力の重要性について提言

2 . Country Strategy Dialogue on Japan (日本の国家戦略に関するセッション)



【セッションの目的】

- 変革に伴って新たな生じるチャンスについて、日本の政策立案者と主要な多国籍企業との間の相互交流を深める

【セッションでの成果】

- 住民合意を踏まえた大胆な規制改革など、「岩盤規制」改革をしっかりと進めるとともに、きめ細かさや質の担保にもこだわった、我が国独自のスーパ シティを実現する決意を表明

3 . Bilateral Meeting (個別会談)



【目的】

- スーパシティの実現に向けて、重要な役割を果たし得る5G、IoT、Maas等、複数の分野におけるエキスパートと会談し、知見を得る

【会談での成果】

- スーパシティに関連する技術や経験を保有する事業者と関係性を築き、いつでもアドバイスや情報交換を頂けるようになった

Raphael Gindrat Bestmile社CEOと